

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901779		
法人名	有限会社 パートナステーション		
事業所名	グループホーム和が家 (ななかまど)		
所在地	旭川市春光台5条3丁目7番4号		
自己評価作成日	令和元年6月1日~7月25日	評価結果市町村受理日	令和元年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_007&ani=true&IievosvoCd=0192902229-00&ServiceCd=720&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和元年 8月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が快適に生活を送って頂ける様にホーム内のスペースを状況に応じて工夫したり、室外でも花壇を整備したり、テントやベンチを設置し他の入居者様や地域の方と楽しんでいただいたり、ふれあいが出来る様に配慮している。周囲は鷹栖の田園風景やしらかば並木を眺めることができ、自然豊かな高台で「ゆったりとした生活」を実現出来る様力を入れている。
また畑作りが出来る環境を整えるようにしている。
「和が家」が地域の中で連携・交流出来る様に、また家族との連携や意見を頂くことで「和が家の生活」がより良いものになるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

白樺林を目の前にした広大な敷地の中に事業所が在り、系列の有料老人ホームが隣接しています。運営者は郷里に戻り、親族の介護と共に地元高齢者への恩返しとして福祉事業を展開し15年が経過しています。花壇や畑を作り、玄関前にはテントやベンチも設置して、利用者が日々心豊かに安らげる環境を創り上げています。毎年恒例になっている事業所主催の納涼祭には、家族はもとより大勢の地域住民の参加が得られ、常に地域資源としての役割を認識した運営が行われています。更に、地域交流テラスを建てて開放し、町内会や地域包括支援センター、社会福祉協議会等の利用があります。地域住民からは深い理解と支援が得られ、相互交流が実現しています。職員は介護者として、外・内部研修等で自己研鑽に励み、利用者にとって適切なケアは何かを推し量り、利用者寄り添い、些細な変化も見逃さず、何気ない会話からも要望を察し、満足度に繋がる支援に取り組んでいます。調理や食材の下準備、物干しなど、利用者の持てる力を発揮出来る場面作りにも努め、生活意欲の向上に繋げています。家族との関係も良好で、年2回の家族会や季節毎の行事へ積極的な参加を得ています。開設当初からの職員を含め、長期勤続者が多い事が利用者や家族との信頼関係構築に繋がっており、職員は利用者にも、日々笑顔で楽しく過ごしてほしいと願い、ケアサービスに臨んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りで読み上げたり会議の際に理念を意識したケアの話し合いをしている	理念が現状に添っているか、定期的に全職員で確認する機会を持っています。方針、目標を明確にし、ユニット会議や申し送り時に理念の浸透に努め、実践に繋げています。更に、役職者は毎年、標語を作成し、職員にケアサービスの目標を示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃やお祭り等町内会の行事に出来る限り参加し交流している	事業所主催の納涼祭は地域住民にも浸透しており、今年も家族を含め200名を超える賑わいとなりました。地域行事にも積極的に参加し、蕎麦打ちや歌、楽器演奏のボランティア訪問や研修生も受け入れています。畑の手伝いなど近所付き合いは盛んに行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	和が家として認知症カフェの開催に協力したり認知症サポーター養成講座に職員を派遣したりしている。また入居相談などで認知症介護のアドバイスも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、現状やサービス内容の報告を行い、意見を頂いている。また行事や食事、レクリエーション、避難訓練等を見ていただき、意見を頂いている。実施した次の月には御家族に文書で内容を報告している	運営推進会議には行政担当者を含む幅広い立場の人の参加を得て、2ヵ月毎に実施しています。事業所の現状報告と共に、避難訓練の実施や身体拘束適正化委員会の説明、試食会、レクリエーション見学のほか、事業所の様子をスライドで紹介するなど透明性を図り、助言等を得ながらサービスの質の確保に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取り合い、協力関係を築いている。運営推進会議に地域包括支援センターの方に参加いただくなど互いに協力できる体制を築けるようにしている	運営者は町づくり推進協議会の構成員として参加協力し、SOSネットワーク事務局も担っています。地域包括支援センターと社会福祉協議会協同の「和が家カフェ」の開催場所に地域交流テラスを提供、フラワー事業には資材を貸し出すなど、連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないよう注意を払い、身体拘束に関する研修にも参加、報告し資料の配布・回覧をしている。定期的に会議も開催し話し合っている。また身体拘束を疑われるものはその都度話し合い検討し、会議等で周知している	身体拘束適正化のための指針を定め、委員会の定期開催、外・内部研修や日常のケアサービス時で指導を受け、職員は身体拘束の弊害について理解を深め、スキルを高めています。センサー使用時には、リスクを説明し家族の同意を得て、記録に残しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や検討事項・疑問が上がった際に会議等で周知している。家族にも意見を頂き防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や検討事項・疑問が上がった際に会議等で周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は不明な事がないかをお聞きし、契約に記載がないことでも具体的な事例からどのように対処しているか説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加いただき、意見を頂ける機会を設けている	年2回の家族会や納涼祭、花壇整備、クリスマス等の季節行事に加え、運営推進会議の機会に家族の意見、要望を汲み取りサービスに反映させています。毎月発行の和が家新聞では利用者個々の様子を伝え、運営推進会議録では事業所の運営状況を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や必要時、面談を行い機会を設けている	定期的に開催される各種会議や運営者、施設長による個別面談等で意見、要望を聞くと共に、日常的にも管理者やリーダーが、個人的に相談に乗る様に心がけ、働く意欲の向上と質の確保に努めています。職員は月別に各種業務の担当を担い運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善に向けての体制作りや環境整備に取り組み、個別の面談も行っている。運営指針や経営方針の説明も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実際の場を見たり、リーダーから聞き取りし職員の力量を把握して研修時には本人の希望と判断にて参加をすすめている。リーダーを通してトレーニング出来る様指導している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修や互いの活動、地域での活動に参加し交流を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、職員全員で本人の不安の解消と要望を聞けるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各ユニットのリーダーや部屋の担当者が中心になり、電話や面会時に家族の不安の解消と要望を聞けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要なサービスについて話を聞き、必要時には他のサービスについてもお話している。またモニタリングを行い、記録し必要な支援が発生したときにはいつでも変更できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできることを見極めできるようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化があればその都度連絡し、毎月の新聞でも生活の様子などの情報提供をしている 面会時には意見を頂いたりこちらからの提案を話したりしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方のなじみの場所にドライブに出かけたり、なじみのある行事に出かけるようにしている	利用者の馴染みの習慣である山菜取りや祭り見物、花展示会見学等の要望は、レクの企画として取り組んでいます。友人の来訪も多く、定期的に訪れる蕎麦打ちのボランティアの方とは馴染みの関係を築いています。家族同伴の墓参りや外食、外泊も人や場の関係性継続に繋げています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人にならないように間に入ったり声を掛けたり、入居者同士の関係性に配慮し座る位置を工夫している		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に入居されていた事からの縁を大切にしながら、今もつながりを持って連絡をいただける方もいらっしゃる、必要に応じ相談や支援を行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から雑談等で本人の言動に注目し耳を傾けるようにして介護計画書に反映出来る様にしている 毎月の会議でも検討している	利用者の半分は言語を発する事が可能ですが、困難な場合もバイタル、顔色、表情、仕草などから小さな変化も見逃さない様に努め、全職員で情報を共有し、本人本位の視点に立って検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からはじめに聞くようにしている、情報を得られるよう普段から情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握しその方にあった過ごし方を支援出来る様に努めている 体力や身体状況にあった支援を心掛けている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いの場を作り、職員全員でモニタリングを行い、それぞれの意見を反映させ、現状に合わせた介護計画を作成している	利用者個々に担当配置された職員がモニタリングを行い、ユニット会議にて最新の情報や気付き、ケアのアイデア等を話し合い検討し、実情に即した介護計画を作成しています。家族からの希望、要望も反映させて、6か月毎に見直されています。緊急時は随時見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きを記録に残すようにしている 情報の共有は申し送りや暮らしの日記に記録するようにしている、また申し送りノートも活用するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要な補助器具やサービス、介助方法を定期的に話し合い、本人・家族と共に職員全員で取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事や環境整備への参加、地域でボランティア活動をされている方に行事の時に来て頂いたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては個々で自由に行っている 必要時は協力医療機関紹介しているが、本人・家族の希望のかかりつけ医を継続されている方もおられる	本人、家族が希望する病院を優先し、受診は家族支援を基本としていますが、職員も同行し状況説明を行う場合もあります。利用者の重度化に伴い、24時間対応の協力医療機関に移行するケースが多くなり、2週間毎の往診を受けています。受診結果は医療情報ノートを作成し、情報の共有が図られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週1回の健康チェック時に看護師に報告している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は医師から説明を受けるようにしており、定期的に連絡をする様にしている、また退院時にも説明を受けるようにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族が納得のいくように話し合いの場を持ったり、医師と家族の話し合いの場を調整している	終末期に対する対応指針を定め、契約時に説明を行い同意を得ています。状態の変化があるごとに、本人や家族の思いに注意を払い、医師、看護師、職員が連携を取り、納得した最期を迎えられる様に随時意思確認しながら取り組んでいます。看取りケアについて、協力医が講師となり学ぶ機会を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者個々の身体状況・状態把握を行い、状態悪化時には主治医に指示を仰いでいる 応急手当の勉強会も不定期ではあるが全体会議等で行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、消防の方にアドバイスを頂いている 地域の方に協力して頂けるよう地域行事への参加等心掛けている	年2回、運営推進会議開催時にメンバーの参加を得て、消防署の指導の下で昼・夜想定火災避難訓練を実施しています。災害時マニュアルを整備し、非常用対応手順書や通報一覧表は掲示しています。備蓄品の充実も図っています。	地震・豪雪・台風・停電・断水等の災害や浴室やトイレ、居室等利用者の様々な居場所を想定し、全職員が年1度は訓練を経験出来る様に、自主訓練も重ね、臨場時における対応の習得に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格や状態を見極め会話している 言葉遣いにも気を配るようにしている その方のプライバシーに配慮したケアを心掛けている	職員は利用者に対する言葉遣いや語調等に気を配り、入浴介助やトイレ介助は、同性介助に努めています。宗教の自由や選挙投票など、権利を保障し、人格尊重に徹しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を出来るだけ聞くようにして、選択して頂ける様配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来るだけ希望にあわう形で日中の行動を決めていただいている 空いた時間には「なんかしないの」と声を掛けていただいたりして希望を聞きレクリエーションをしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時には服を選んでいただいたり、身だしなみに気を配っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人の好き嫌いや食事形態を考慮し提供し、出来ることをして頂いている	朝食は委託していますが、昼・夕食は調理専門職員によって、利用者の嗜好や健康状態に考慮した献立を工夫し、食欲を高め、食事への関心に繋げています。レクのお菓子作りや採ってきた山菜の下準備などでは、利用者の知恵や経験を生かして一緒に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いやその時の状態に合わせて食べられない時には違うものを提供している 水分に関しても好みに合わせて提供し、状態に合わせてロミを使用したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自らできる方は見守りにて頂き、介助が必要な方には歯ブラシや舌ブラシ、スポンジを使用して口腔ケアを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方にあわせ汚染が無い様に声掛けを行っている 全介助の方にはそのときの状態に合わせてトイレ誘導を行っている	職員はトイレでの排泄を基本と考え、利用者個々の排泄チェック表や生活リズムを把握して声掛け誘導を行い、出来る限り下着着用で、心地よい生活を支援しています。居室にトイレが設置されている事で、プライバシーや羞恥心に配慮され、自立者も気兼ね無く、ゆっくりと用が足せる環境が整えられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり食事のメニューに気をつけている 体操やレクリエーションも可能な時は行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	週2回入浴して頂いている 希望も聞きその方に合わせた入浴方法を心掛けている	リフト設置のユニットバスと二人入浴可能なゆとりある浴室と、各ユニットで造りが違い、利用者の要望に合わせて使用しています。入浴は週2回を目安に、足浴やシャワー浴も取り入れています。職員は、利用者の好みの入浴方法をアセスメントで汲み取り、拒絶者を無くし、入浴を楽しめる工夫に取り組んでいます。窓から望む田園風景は格別の癒し効果となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて休んでいただいている 夜間の入床時間に関しても希望を聞いたりその時の状態に合わせて休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方になった場合は処方を確認した上で服薬して頂いている 服薬してからの状態経過を観察し主治医に報告している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることをして頂き役割を持っていただいている 外出等で気分転換をしていただいたりレクリエーション等を楽しんでいただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き出かけるようにしている その方の喜ばれるところを考え出かけている	季節に応じて、桜見学、サクランボ狩り、リンゴ狩り、花フェスタ、冬祭りなど外出計画を立てています。更に、利用者の要望をレクとして企画し、山菜取りや祭り見物など楽しんでいます。玄関前は広く、大きなテントやベンチが設置され、外気浴や散歩を日常的に取り入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方にはお金を持っていただいたり希望される方にはお小遣い程度のお金を持っていただくようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしていただいたり、手紙を書いていただく企画をしたりしている 本人宛の電話が着た際には取り次いでいる		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすい配置を心がけ、その時の状態に合わせて配置を換えられれるようにしている 掲示物も季節感のある物を心掛けている	2階建ての1階を左右に仕切り、2ユニットが配置されています。天井は吹き抜けで、広がり、採光、空気の流れなど、開放感と五感刺激に工夫され、利用者、職員も各ユニットを自由に行き来出来る造りになっています。和室も設え、居室以外の一人空間や、家族来訪時の団らんの場として活用されています。神棚を設け、壁には利用者の写真や手作り作品、絵画が飾られ、生活感や季節感を表現しながら暮らしの場を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が居心地の良い空間になるよう配慮し声を掛けたりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや大切なものを置いて頂ける様に、本人や家族と相談している 温度調整や換気にも気をつけている	居室には、洗面台、トイレ、クローゼット、収納棚が設置され、共同生活の中のプライバシーを大切に工夫が窺えます。使い慣れた馴染みの品に囲まれ、その人らしい居心地良い居室づくりに取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のできることにあわせ物の配置を考えている 移動しやすいスペースにも配慮している 個人で出来ることやみんなで出来ることを見極めそれぞれが自立した生活を送れるように工夫している		